

令和元年 12 月 11 日

厚沢部町議会議長 鈴木 祥 司 様

産業厚生常任委員長 浜 塚 久 好

産業厚生常任委員会第 2 回所管事務調査報告

当委員会が行った所管事務調査事項について、会議規則第 77 条の規定により報告します。

記

- 1 調査年月日 令和元年 10 月 17 日（1 日間）
- 2 調査項目
 - 1）農地中間管理機構関連事業（稲見地区）及び農地整備事業（滝野地区）について（現地調査）
 - 2）チップボイラーの稼働状況について（現地調査）
 - 3）有害鳥獣対策について
 - 4）国保病院の現状について
- 3 調査委員

委員長	浜 塚 久 好
副委員長	香 川 直 樹
委員	山 崎 孝
委員	佐々木 宏

4. 調査結果

1) 農地中間管理機構関連事業（稲見地区）及び農地整備事業（滝野地区）について（現地調査）

農地中間管理機構関連事業（稲見地区）及び農地整備事業（滝野地区）について資料説明を受け現地調査を行った。稲見地区のほ場は昭和40年代に1次整備が行われたが、それ以降、高低差が大きい地域であることから大々的な整備が行われておらず、また、大半がれき混ざりの土壌である。水路についても老朽化が著しく、維持管理に苦慮している状況である。道営事業である農地中間管理機構関連事業により農地整備を行い、将来の担い手への農地集積を図るものである。

滝野地区のほ場は山林からの排水を多く受けており、法面崩壊等により維持管理費が増大しているほか、豪雨により冠水が発生し農地へ被害を及ぼしている。道営事業である農地整備事業（滝野地区）では主に用排水路の整備を行い農地の基盤整備を図るものである。

2つの事業の期間は平成30年度から令和6年度までを予定しており、本事業の実施により、収益性の向上が図られるとともに、将来の担い手へ良好な農地として集積されること及び用排水路機能強化が図られることに期待する。

2) チップボイラーの稼働状況について

チップボイラーの稼働状況について資料説明を受け現地調査を行った。チップボイラーは上里ふれあいセンター、館地区憩の家及びうずら温泉の3施設で稼働しており、これまで一部のチップボイラーで大きな故障があったものの、現在は小規模な修繕や消耗品交換等の管理により良好な維持管理がされている。しかし、館地区憩の家のチップボイラーについては導入から9年以上が経過し、その間、大規模な修繕が行われている。今後も修繕の費用が見込まれることや燃料の乾燥チップが生チップに比べて高価であることから、納入業者と協議の上、うずら温泉や上里ふれあいセンターと同じボイラーを導入すべきであると考ええる。

3) 有害鳥獣対策について

有害鳥獣について資料説明を受けた。有害鳥獣による農作物の被害額は平成29年度で約490万円、平成30年度で約820万円と増加しており、今後ますます被害が悪化することが懸念される。その一方、ハンターは高齢化等により不足する恐れがあることから、現在町が行っている免許や許可に係る助成だけでなく、銃や銃弾、ロッカー等の取得費用に対する助成などについても検討し、ハンターの確保に努めるべきであると考ええる。それと同時に、農家自身の積極的な鳥獣被害防除を促進するため、より多くの農家に電気牧柵を貸し出せる体制の整備も必要であると考ええる。また、町内に有害鳥獣の解体場がなく、有害鳥獣の解体に苦慮しているハンターもいることから、解体場を整備し駆除

がより円滑に行われる体制を整え、有害鳥獣による被害が少しでも抑制されることに期待する。

4) 国保病院の現状について

国保病院の現状について、資料説明を受けた。国保病院の医師体制は令和元年8月より常勤医師が1名増え、4名体制となっている。このことにより休診日において常勤医師3名での交代勤務が可能となり、常勤医によるきめ細やかな医療の提供とかかりつけ医に診てもらえるという住民の安心感が醸成されることにより患者の増加が期待できる。さらには3名の当直体制により医師の労働環境改善が図られ、それが今後の継続的・安定的な医師確保につながると考えられる。また、新たに採用した医師の専門性を生かした消化器分野に関する検査や診療体制の強化も期待される。

一方、看護師に関しては募集しても応募が少ない状況であり、今後も退職等による欠員が想定されるため、看護師の確保についても重要な課題である。

今後は、交付税のさらなる減額が見込まれる中、継続して看護師等の人材確保に努め、安定的な入院患者数の確保を最優先し、医業収益の根幹をなす入院収益の向上に取り組むとともに、医療の面だけでなく今まで以上に接遇等の患者対応にも今後とも継続して取り組み、よりよい病院づくりを望むものである。